

【交流協会台北事務所主催】2012年度第2回中等教育機関日本語教師研修会

「楽しく授業ができるいろいろな試み」

— 聞き取りのタスクを中心にして —

2013年2月28日

講師：洪淑娟

本研修会では、前半で、アフレコ活動、聞き取りのタスクの紹介を行い、後半は、ワークショップ、意見交換などを行いました。

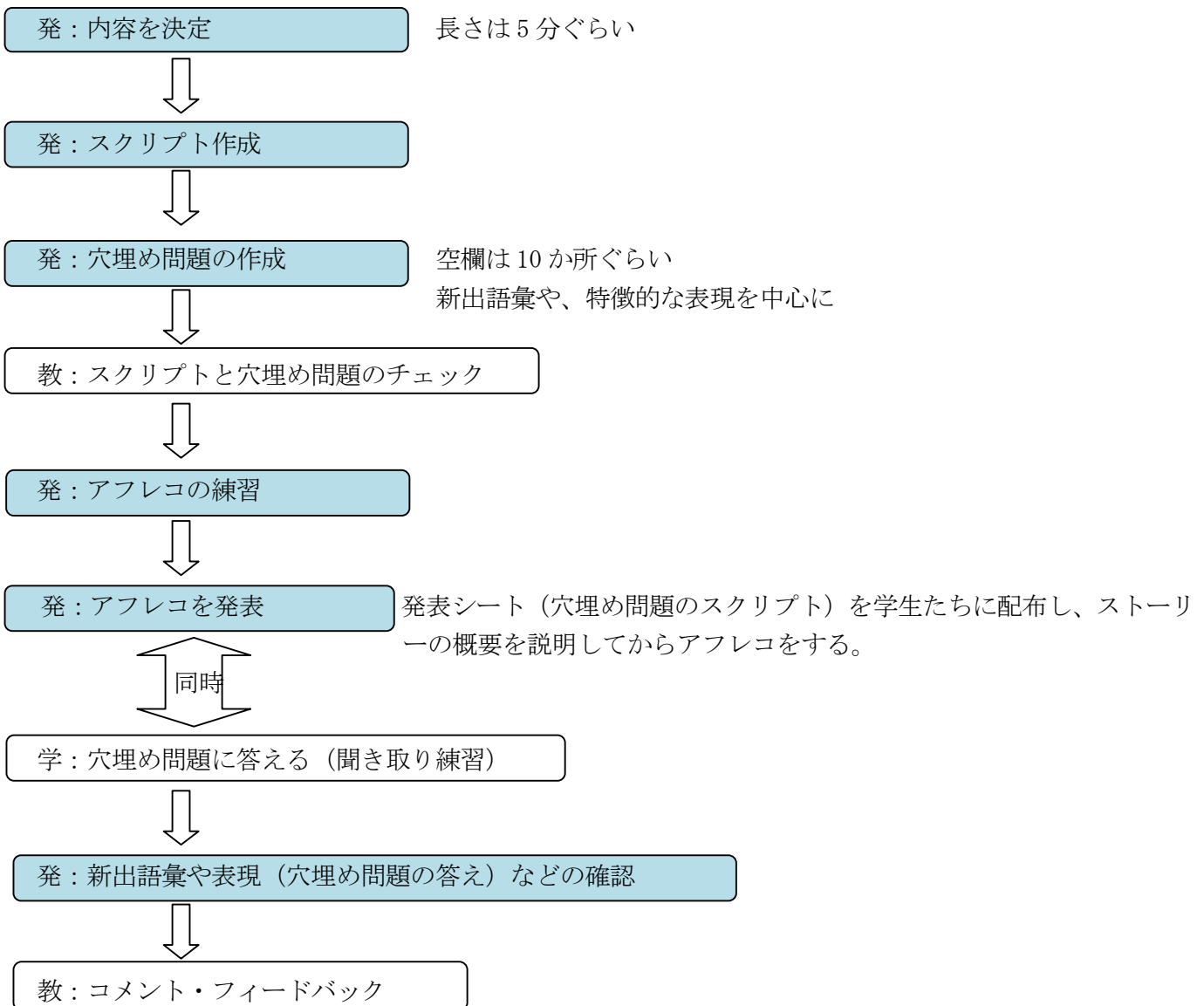
(1) アフレコ活動の紹介

まず、大学で実際に行っているアフレコ活動を紹介させていただきました。アフレコ活動ははだいたい以下のような流れで進めています。

発：発表者

教：教師

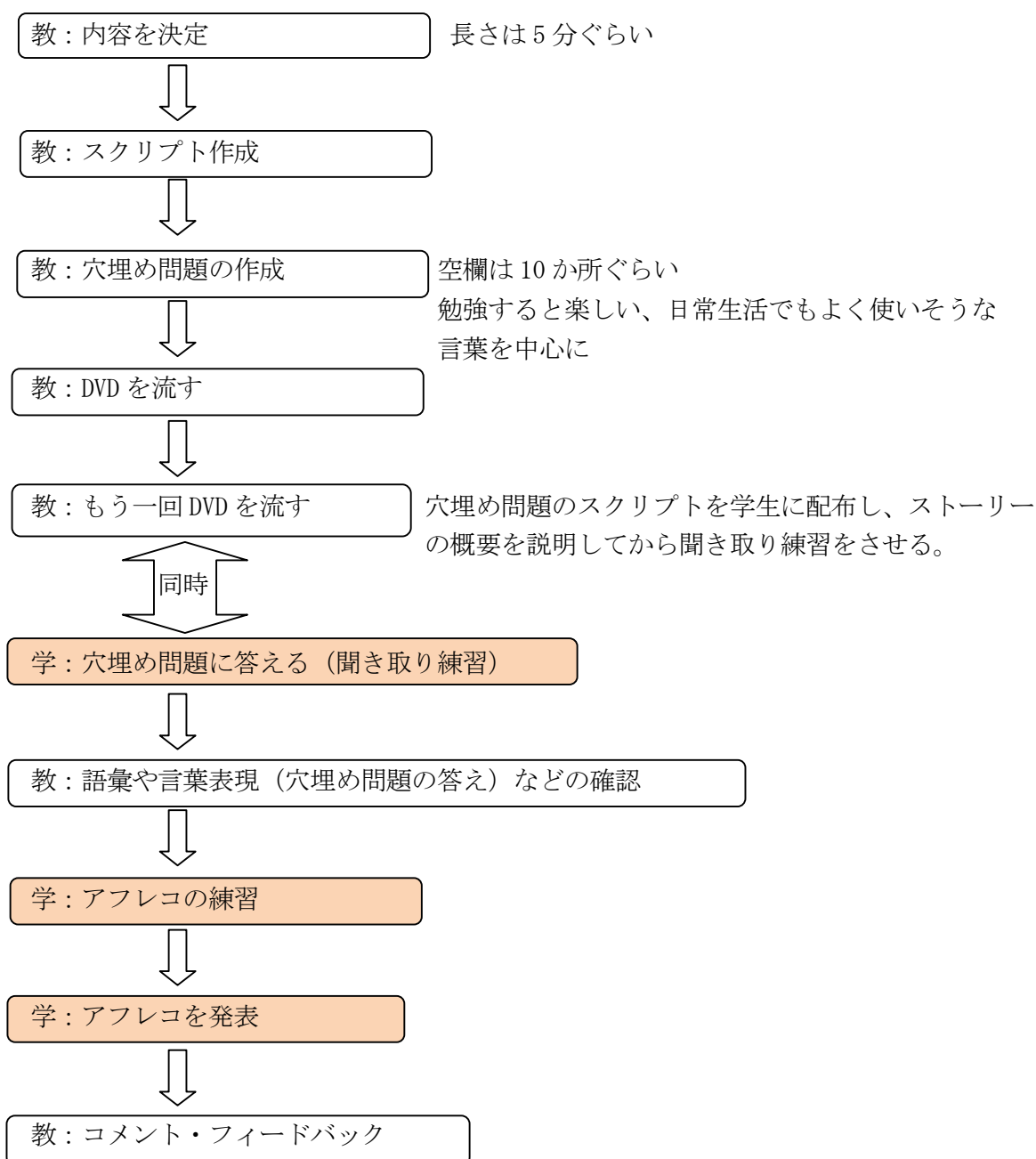
学：学生たち



大学生からは自分が参加できて面白かったという感想が多かったです。高校生の場合も、アフレコを授業に取り入れることで、楽しく勉強ができ、学習意欲も高められるでしょう。本研修会では、高校生もよく知っているアニメ（『ちびまる子ちゃん』）を使って先生方と一緒にアフレコ活動を体験していただきました。しかし、高校生の学習者と大学生の学習者では、日本語レベルや日本語の学習動機などは違いますので、やり方は調整しなければなりません。たとえば、高校生学習者には映像の音声を聞いて文字化してスクリプトを作成することはまだ難しいと思われます。ですので、内容の選択やスクリプトの作成などは教師がすることになります。流れも以下のように調整していくと無理がなくなるでしょう。

教：教師

学：学生たち



高校生の学習者向けアフレコの試みや実際に行う場合に困難な点、よりやりやすい方法についても、先生方と意見交換をしました。高校生の学習者には少し難しい活動かもしれませんが、教師側が工夫すれば活気あふれる授業になると思います。

用意する物：上記テキスト、またはWEB版 <https://www.erin.ne.jp/>
プリント（モデル会話文、メニュー）

方法：ステップ1：聞く練習

字幕を見せないで、注文の場面の聞き取り練習をする。

ステップ2：話す練習

生教材（店のメニューなど）を使って注文練習をする。

目標：日常生活での応用

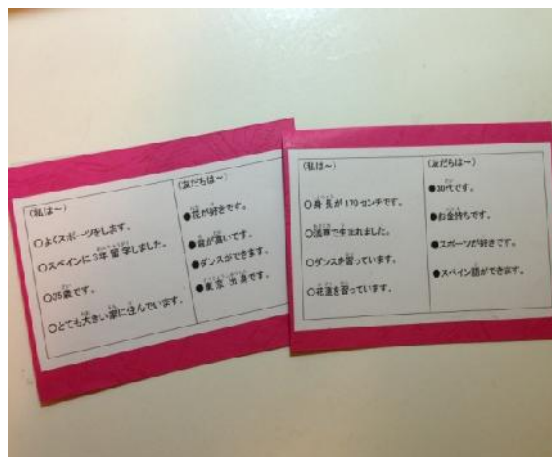
③ 「You are my wife」 （友だちを探しましょう）

レベル：『みんなの日本語 初級』L14「～ています」終了程度

用意する物：自分と相手の情報が書いてあるカード（図2）

方法：学習者に1枚ずつのカードを配り、それぞれのカードの情報に合っている相手を探し出す。

目標：質問をしたり、答えたりしながら、タスクを達成する。



(図2) 情報カード

実際の場面では、「聞く」活動は常に「話す」活動とつながっています。ですから、単純な「聞く」タスクも「聞き取りを会話に結び付ける」タスクに応用できますし、さらに日常生活でも応用できるでしょう。

(3) ワークショップ&意見交換

実際の会話では、話し手と聞き手との間に何らかの情報の差（インフォメーション・ギャップ）があるのがふつうでしょう。お互いのインフォメーション・ギャップを埋めようとするのは常に会話のタスクの目標になります。そこで、インフォメーション・ギャップを生かした聞き取りのタスクを中心にグループごとに話し合い、いろいろなおもしろいアイディアを共有し合いました。

おもしろいタスクを通して学習者の学習意欲が高められると、学習成果も上がると思われまます。楽しくよりダイナミックな授業ができるようにこれからも先生方といっしょに考えていきたいです。

以上